

研究代表者 青柳 暁子 山梨県立大学人間福祉学部

小島 令嗣 山梨大学大学院総合研究部医学域

【今後の展開 商品イメージ応用できる分野】
本 研 究：フリーマーケットの公衆衛生的可能性を検討した実践研究（2024年度山梨県立大学地域貢献研究）
今後の展開：フリーマーケットへの出店を、高齢者の多世代交流・役割獲得を促す社会参加活動として捉え、高齢者の生きがいや就労支援に資する活動として展開
他市町村への普及し易いパッケージ化
自治体・地域団体・企業・大学等との連携により、継続的に実施可能な「地域交流型フリーマーケット」のモデル化

本研究以外：
①「デジタル機器（スマートCATV）を活用した遠隔介護予防」（科学研究費補助金：基盤研究C）
②「障害者の特性を活かした働きやすい環境の検討（障がいを持つ就労者のインクルーシブ生産シミュレーションモデル構築）」（公益財団法人みずほ福祉助成財団2025年度社会福祉助成金）

I.背景

既存の論文では在宅で生活する高齢者にとって、社会参加、多世代との交流、他者へのサポートの提供といった、人々との積極的な関わり合いや社会的役割獲得は生きがいや主観的幸福感を感じる上で重要な要素となることが示唆されている。しかし、多世代交流や社会的役割取得を促進する社会活動は限定的である。
フリーマーケットは、物品の販売を媒介として来場者との交流が生じる地域イベントの一形態である。フリーマーケットへの出店は自由に店主が商品や開催時間等を決定可能で、心身の機能や就労条件についてフレキシブルであるため、高齢者にとって負担が少ないこと、出店によって店主という役割や、地域での売買を通じた地域貢献という役割獲得が可能なこと、売買を通じた多世代交流が可能という 点で、多世代交流や社会的役割の獲得を通して生きがいや主観的幸福感を促進する地域活動として機能するのではないかと考えた。
そこで本研究は地域高齢者がフリーマーケットに出店することで、出店者の生きがい感と主観的健康感の変化の有無を明らかにし、フリーマーケットが生きがいや主観的幸福感を促進する地域活動となるかを検討した。

II.研究方法

2025 年11月16日（日）にフリーマーケットを開催することとし、その出店者を地域の自治会連合会、オレンジカフェ、調査協力者を通じて募集した。応募者に対して、10月26日に調査説明会を開催し、調査協力への同意を得た15名を調査対象者とした。
調査対象者はフリーマーケットに出店すると同時に、フリーマーケット開催日前後にK-1生きがい感尺度、SUBI（主観的健康観尺度）に回答を依頼し、14名から回答を得た。また、フリーマーケットの開催中に交流調査を行った。さらにフリーマーケット後にインタビュー調査を行った。

III.結果

(1) 対象者の概要 調査対象者14名の内、データに欠損のない13名を分析対象とした。分析対象者の属性は男性3名、女性10名、年代は60歳代は7名、70歳代は3名、80歳代が3名であった。（表1）
質問紙調査 フリーマーケット前後における生きがい感スケールおよび主観的健康観（心の健康度・心の疲労度）の得点に有意な変化は認められなかった。（表2）
(2) 交流調査 会話回数は2時間あたり平均44.5回／人であった。会話時間は1分未満が約50％，1分以上5分未満が約40％であった。会話相手は来場者が35％、会話相手の年代は高齢者が57％，会話内容は販売に関する内容は約50％が最多であった。（表3）
(3) インタビュー調査：7名が「生きがいになった」と回答した。その内訳は、「人との交流」が4名、「社会参加のきっかけ」が1名であった。残る2名は、既存のフリーマーケット参加 および手工芸制作活動自体が生きがいであると述べた。フリーマーケットの感想としては、人との交流や販売経験への肯定的評価、社会参加を通じた気づき等が語られた。（表4）

IV.考察

フリーマーケットの単回の介入は量的分析からは生きがい感や主観的健康観には直ちに影響はなかった。しかし、交流調査や質的研究結果から、継続的な関与によって**生きがい形成の可能性が示唆**された。

表1. 対象者の属性 (n = 13)

	度数	%
性別		
男性	3	23.1
女性	10	76.9
年代		
60歳代	7	53.8
70歳代	3	23.1
80歳代	3	23.1
フリーマーケット経験		
あり	5	38.5
なし	8	61.5
就労		
あり	5	38.5
なし	8	61.5

表2. フリーマーケット前後における生きがいスケールおよび主観的健康観の変化 (n = 13)

	フリーマーケット前		フリーマーケット後		p値 [†]
	中央値	[四分位範囲]	中央値	[四分位範囲]	
生きがいスケール	29	[21.5–30]	28	[22.5–30]	0.87
主観的健康観					
心の健康度	38	[31–42]	37	[31–39]	0.3
心の疲労度	47	[43–50.5]	48	[39–50.5]	0.12

[†]Wilcoxonの符号付順位検定

表4. フリーマーケットの生きがい感への影響

カテゴリー	コード	回答者数
生きがいになった	・人との交流がよかった	4
	・今回に限らず別のフリーマーケットに参加しており、それに向けた手工芸制作が生きがいになっている	2
	・外に出て社会参加するきっかけになった	1
一体感を感じた	・参加している感覚を感じた	1
期待感があった	・売れるか楽しみだった	1
生きがいまではなかった	・張り合いはあった	1
	・経験はよかった	1

表3. フリーマーケット中の会話の分布 (n = 13)

	度数	%
会話時間		
1分未満	305	56.6
1分以上5分未満	205	38
5分以上15分未満	28	5.2
15分以上30分未満	1	0.2
30分以上	0	0
会話相手 [†]		
学生	33	5.7
スタッフ	47	8.2
調査者（学生）	80	13.9
同じブースの出店者	46	8
知人	54	9.4
来場者	201	35
違うブースの出店者	109	19
その他	5	0.9
会話相手の年代		
こども	16	2.8
若者（学生世代）	96	16.8
成人	133	23.3
高齢者	326	57.1
会話内容		
売買や販売物	313	54.2
挨拶（天気など）	43	7.4
雑談（近況など）	130	22.5
その他	92	15.9

[†] 会話相手が複数の場合は主な相手とした



甲府市役所西庁舎（旧六切小学校体育館）の様子 ①



甲府市役所西庁舎（旧六切小学校体育館）の様子 ②

今年度も開催予定です